

新潟市暮らしの点検・評価アドバイザー会議におけるご意見への対応等

事業名：食育推進事業（「にいがた流食生活」実践事業，食育推進計画推進事業）

No.	ご意見	対応等
1	<p>食育マスターの派遣，味覚の教室などの周知については，学校長宛のほかには地域教育コーディネーター宛にも出すなど，周知の工夫を。</p>	<p>学校への周知については，地域コーディネーターの方にも情報が届くよう周知いたします。</p>
2	<p>食育マスターのレベルや基準について，自己流でも良いとのことだが，食文化の正確性に問題はないのか心配。最低限の知識は持ってもらい，郷土料理などでも，スタンダードを知っている上で自分流を伝えるのであれば良いと思う。</p>	<p>食育マスターの皆様は，様々な資格をお持ちの方，専門の研修を受けておられる方，さらには，ご自身で専門的な活動をされている方がほとんどで，それらの方が本制度の趣旨に賛同し，市民の食育推進のための一役を担ってくださっております。食育マスターの登録の際は，それらの皆様の日頃の活動状況などを確認し，登録させていただいており，その方の持つ知識や技術は，専門性の高いものとなっております。</p> <p>食文化は，その土地（地域）に根差したもので，そこから生まれる郷土料理は，その土地（地域）につたわる唯一無二のものです。郷土料理は，その土地の気候，風土，風習，そこで採れる農産物など，そして，作り手の考えなどが絡みあい成り立っており，本市では，郷土料理にまつわるそれらの処々のことを含め，次世代に伝えたいと考えております。</p> <p>料理のスタンダードの意味合いをどこまで追求するかは難しいところですが，ハンバーグやカレーなどは，皆がイメージできるような基本の作り方があり，そこに，食材の種別，作り手の考えが加わりアレンジ料理になるのと同じように，郷土料理にも基本があり，そこに，伝える側の経験などに基づくアレンジが加わ</p>

		るものだとご理解いただければ幸いです。趣旨をご理解いただき、今後とも、食育マスター 制度をご活用ください。
3	世界の祭と食とは関わりが深い。世界に発信する祭に出来るとおもしろい。食育は集客力があるので、新潟まつりと何らかのコラボをしてはどうか。	食育活動は、幅広く、活動が地域の活性化につながる要素も持っていると考えております。お話をいただき、連携できる部分がありましたら検討させていただきます。
4	アグリパークやいくとぴあの収支の面で、施設全体が収益を上げるように、取組を進めてほしい。	指定管理者は、施設全体の事業バランスを考慮して、限られた予算でより効果的な取組を推進することが求められます。今後も、市と連携を図りながら、効果的な手法を取り入れ、取組を進めて参ります。
5	「新潟食の陣」の場や機会を活用して「にいがた流食生活」を大々的に PR してはどうか。(農林水産省の「郷土料理百選」の「のっぺ」などを題材にして)	さまざまな機会をとらえて普及啓発を進めるひとつの機会として検討して参ります。

■その他参考意見

- ・日本ではなく「にいがた流」なので、端的に「新潟はこれ」とパッと目に入るような特徴を、どう打ち出せるかだと思う。
- ・地域活動補助金の中に「食育」がない。加えてもらえるとありがたい。